A-39 紀伊半島で初確認の紅斑熱、その疫学調査

○高田伸弘・矢野泰弘（福井医大・医動物）・藤田博己（大原研究所）

Spotted fever cases confirmed first in Kii Peninsula, especially its epidemiological surveys

Takada, N., Yano Y. and Fujita H.

紀伊半島南端地域で1994年6～9月に同半島初の紅斑熱3例を確認した。そこで、同9月下旬に半島の北緯34度以南で疫学調査を行なった。推定感染地点は海岸より入ったすさみ町の山林（2例）と日置川町の河川沿い耕作地（1例）であった。マダニは季節的に幼若虫が優占し、*H. flava*、*longicornis*、*megaspina*、*kitaokai*、*D. taiwanensis*を見た。マダニ乳剤の細胞接種で紅斑熱群リケツチアは分離陰性ながら、マウス腹腔接種では主に*H. flava*や*longicornis*で同抗体産生をみた。同地のアカネスミでは、血清で高率に同抗体およびツツガムシ病抗体を検出したが、同リケツチアおよびライム病の分離は陰性であった。一方、山間住民（発生地）でも紅斑熱やツツガムシ病抗体保有率の高い傾向をみた。唯一の患者分離株も*R. japonica*とみなされ、現地でライム病も疑われた「熊野山林熱」はこれらリケツチア症かと判断された。

A-40 岐阜県の恙虫病：リケツチアの病毒性

○粕谷志郎（岐阜大・医・寄生虫）・野田伸司（岐阜県衛生公害研）

Tsutsugamushi disease in Gifu Prefecture: Virulences of rickettsiae

Kasuya S. and Noda N.

岐阜県の患者、野鼠、ツツガムシより分離できたリケツチア（Rt）はモノクロナル抗体による分類で6株となった。この内、患者からはKawasaki, Kuroki, KN-2, KN-3の4株が分離できた。そこで今回はこれらの株をマウスに感染させ、それらの病毒性を検討したので報告する。

方法：強毒株は有毛マウスで、弱毒株はヌードマウスにて継代し、それらの脾臓乳剤を感染源としてBALB/cマウスに腹腔内注射した。マウスは経時的に解剖し、腹水、各臓器を観察し、血清抗体価を蛍光抗体法にて測定した。

成績と考察：Kawasaki, Kuroki, KN-2は弱毒でマウスを殺さなかった。Kawasaki株とKN-2株の感染では、感染第1週で著名な脾腫と腹水の貯留が認められたが、第2週目で対照との差は無くなった。Kuroki株では、こうした変化はほとんど認められなかった。KN-3株では2週目に強い腹水の貯留と脾腫が認められ、3週までに全例が死亡した。抗体応答は強毒株で弱かった。組織学的には脾臓の赤脾髄の拡大が見られ、強毒株の感染では、リンパ節のnecrotizing lymphadenitisが観察された。

研究協力：長野 功（岐阜県衛生公害研究所）・池田庸子・下川邦泰（岐阜大・中検病理）